

Symphony

TOKYO SYMPHONY ORCHESTRA MONTHLY CONCERT BROCHURE

2020
DECEMBER

No. 687

Sat. 5th December
Subscription Concert

Niigata
Special Concert

Sun. 6th December

No. 75

Wed. 16th December
Kawasaki Subscription Concert
[Rescheduled Concert]

No. 119

Wed. 23rd December
Tokyo Opera City Series

Special Concert

Mon. 28th December
Tue. 29th December

12



Jonathan Nott, *Music Director*



TOKYO SYMPHONY ORCHESTRA

Jonathan Nott, Music Director

音楽監督 ジョナサン・ノット

桂冠指揮者 秋山和慶

ユベール・スダーン

名誉客演指揮者 大友直人

特別客演指揮者 飯森範親

永久名誉指揮者 アルヴィド・ヤンソンス ◆

上田 仁 ◆

遠山信二 ◆

名誉コンサートマスター 大谷康子

コンサートマスター グレブ・ニキティン

水谷 晃

アシスタント・

田尻 順

コンサートマスター 廣岡克隆

会長 横川 端

理事長 澤田秀雄

副理事長 平澤 創

依田 巽

専務理事 大野順二

常務理事 辻 敏

理事 阿部武彦 永山 治

池辺晋一郎 夏野 剛

伊藤美樹 南部靖之

大橋 博 福川伸次

岡崎哲也 藤原 洋

庄司 薫 増岡聡一郎

竹中平蔵

監事 磯村文靖

寺西基之

評議員長 金山茂人

最高顧問

評議員 梅沢一彦 星 久人

鷲海量明 松木康夫

片山泰輔 山添 茂

加藤英輔 横川 竟

西村 朗

特別顧問 飯島延浩

草壁悟朗

福田紀彦

1st Violins

- 木村正貴
- 堀内幸子
- 小川敦子
- 加藤幸子
- 立岡百合恵
- 土屋杏子
- 中村楓子
- 森岡ゆりあ
- 吉川万理
- 大和田ルース

2nd Violins

- 清水泰明
- 服部亜矢子
- 坂井みどり
- 加藤まな
- 福留史紘
- 阿部真弓
- 河裾あずさ
- 塩谷しずか
- 鈴木浩司
- 竹田詩織
- 渡辺裕子

Violas

- 青木篤子
- 武生直子
- 西村真紀
- 多井千洋
- 山廣みほ
- 小西広興 ●
- 鈴木まり奈
- 永井聖乃
- 松崎里絵

Cellos

- 伊藤文嗣
- 川井真由美
- 謝名元 民
- 蟹江慶行
- 樋口泰世
- 福岡茉莉子 *

Double Basses

- 回助川 龍
- 北村一平
- 久松ちず
- 安田修平
- 渡邊淳子
- 笠原勝二

Flutes

- 相澤政宏
- 八木瑛子 *

Flutes & Piccolos

- 高野成之
- 濱崎麻里子

Oboes

- 荒 絵理子
- 荒木奏美
- 篠崎 隆

Oboe & English horn

最上峰行

Clarinets

- エマニュエル・ヌヴー
- 吉野亜希菜
- 近藤千花子
- 小林利彰

Bassoons

- 福井 蔵
- 福士まり子
- 坂井由佳
- 前関祐紀

Horns

- 上間善之
- 大野雄太
- ジョナサン・ハミル
- 阪本正彦
- 加藤智浩 *
- 清根伸吾 *

Trumpets

- 佐藤友紀
- 澤田真人
- 野沢岳史 ●
- 松山 萌

Trombones

- 鳥塚心輔
- 大馬直人
- 住川佳祐

Bass Trombone

藤井良太

Tuba

○渡辺 功

Timpani & Percussions

- 清水 太
- 武山芳史
- 綱川淳美
- 新澤義美

Harp

○景山梨乃

Librarian

★武田英昭

Stage Managers

西岡理佐
山本 聡

楽団委員

井伊 準 ◆

楽団長
大野順二

編成局長
藤原 真

パネソネル・マネージャー
大和田浩明

楽団委員
大野雄太 (議長)
福留史紘 (書記)
北村一平

鈴木浩司
多井千洋
藤井良太

事務局長
辻 敏

事務局

- 伊藤瑛海
- 尾木貴雄
- 梶川純子
- 桐原美砂
- 佐藤雄巳
- 高瀬 緑
- 竹内裕子
- 長久保宏太郎
- 廣中憲士
- 美濃部 敦
- 山田道子
- 小川博司 *

名誉団友

深江泰輔 ◆ 三木靖雄

団友

- 天野佳和
- 新井 汎
- 安藤史子
- 池田 肇
- 石川晴依世
- 今村和弘
- 岩澤淳子
- 田中真輔
- 上原正二
- 上原規照
- 上原未莉
- 内田彬雄
- 内田乃桐子
- 宇都 実
- 梅田 学
- 大隅秀治
- 大塚正昭
- 馬場隆弘
- 小川さえ子
- 荻野 昇
- 奥田昌史
- 音川健二
- 加護合酒美
- 甲藤さち
- 加藤信吾
- 金澤 茂
- 宮原祐子
- 久保田一穂
- 熊谷仁士
- 小林照雄
- 小林亮子
- 佐川聖二
- 佐々木真
- 菅野明彦
- 杉浦直基
- 鈴木一輝
- 菅根敦子
- 千村雅信
- 十亀正司
- 豊山 悟
- 中塚和良
- 中塚博則
- 中山 智
- 西依智子
- 西脇秀治
- 野村真澄
- 大塲隆弘
- 原田美保子
- 日野 奏
- ペアン・
- ボーマン
- 前田健一郎
- 丸山正昭
- 三浦正信
- 宮原祐子
- 宮本直樹
- 宮本 睦
- 森みこ子
- 諸橋健久
- 渡辺哲郎

【ハーブ寄題：環境ステーション株式会社】

◎首席奏者 ○フォアシュピラー ●インスペクター 回客演首席奏者

■本部長 □部長 ★チーフ *研究員・準事務局員 ◆故人 ◇新任

演奏会でのお願い

ご来場の皆様に演奏会を
楽しんでいただくためにご協力下さい

Please keep in mind the following rules, protocol and
etiquette so that all of our guests may enjoy today's concert.



チケットに記載された 座席でご鑑賞ください

お手持ちのチケットに記載されて
いる座席番号にのみ有効です。座
席移動はご遠慮ください。また係の者が、チケットを
拝見・確認させていただく場合がございます。

Please be seated at the seat number designated on your
ticket.



補聴器の確認を

補聴器をご使用のお客様は、ハウ
リングの発生を避けるためにきち
んと装着されているか今一度お確
かめください。

For our guests who wear hearing aid devices, please
check that your device is suitably set before the
performance begins.



開演前に携帯電話、 時計のアラーム音、 電子機器等の電源はOFF

マナーモードにしても振動す
る音が響きますので、電源は必ず
切るようにしましょう。

Switch OFF your mobile telephones, wristwatch alarms
and all other noise-emitting electronic devices before the
performance begins.



演奏中の 飲食はご遠慮ください

のど飴等の包み紙を開ける音は
思っている以上に場内に響きます
ので、演奏中の開封はご遠慮ください。のど飴は演奏
開始前までに口の中へ入れておきましょう。

Refrain from eating and drinking during the performance.



演奏中はお静かに

手荷物につけている鈴やビニール
袋等、音の出るものは音を立てな
いようにご配慮ください。演奏中
の私話、プログラムやスコア等紙類をめくる音、かば
んのチャック等をいじるのも雑音となりますのでご注
意ください。

Please be silent during the performance.



周囲の視界を遮るような 行為はやめましょう

身を乗り出しての鑑賞や、つばの
広い帽子や高さのある帽子は脱い
でご鑑賞ください。またリズムをとる行為も、隣の人
の迷惑になりますのでおやめください。

Please refrain from wearing hats or rhythmically swaying in
a way which could disturb or obstruct the view of those
seated near you.



開演後の入場を 制限させていただきます

開演後のご入場、曲間・楽章間のご
入場は制限させていただきます。
途中入場がある場合は、係員の指示に従ってください。

You will not be permitted to enter the concert hall during a
performance.



咳、くしゃみをする際は ハンカチで押さえましょう

ハンカチをあてがうことで音量は
かなり軽減されます。

Please use a handkerchief to help suppress the noise from
any coughing or sneezing.



曲の余韻も 演奏のうちです

フライングブラボーやフライング
拍手はお控えください。

The lingering sounds and moments are part of the
performance. Please hold your applause or shouting your
appreciation until the actual end of the performance.



香水は控えめに

Refrain from wearing an excessive amount of perfume.



ホール内での録音・録画・ 写真撮影は禁止です

Photography, filming and recording are prohibited.

ご来場の皆様へ

東京交響楽団では、政府及び地方自治体の方針を踏まえ、クラシック音楽公演運営推進協議会、全国公立文化施設協会、また各開催ホールのガイドラインに沿うとともに、医師の指導と併せ、最大限の感染予防と拡大防止のための対策を実施した上で主催公演を開催しております。

ホールまで足をお運びくださるお客様に安心して演奏会をお聴きいただけるよう、細心の注意と対策を講じた上で、厳重な安全確保に努めます。何卒ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

公益財団法人 東京交響楽団

新型コロナウイルス感染症対策とお願い

「マスク着用」「こまめな手洗い・手指消毒」にご協力をお願いいたします。

会場内では常時正しくマスクを着用していただけますようお願いいたします。咳エチケットにつきましてもご配慮ください。お手洗いには液体石鹸・アルコール消毒液等、ホワイエにはアルコール消毒液等を各所に設置しておりますのでご利用ください。

「社会的距離」を保っていただけますようご協力をお願いいたします。

入場時・休憩時(お手洗いで行列)・終演後の退場時等の行列では、社会的距離として最低1メートルは確保していただけますようご協力をお願いいたします。また、客席・ホワイエ等でのご歓談、お客様同士の近距離での会話はお控えください。

一部ホールではドリンクコーナー／クローカーサービスを休止させていただいております。

薬の服用や水分補給のために必要な飲料水(フタ付き飲料)はご自身で持参ください。

物品販売は行いません。

「ブラボー」などの掛け声は禁止とさせていただきます。

終演後は、アナウンスに従って退出していただけますよう協力をお願いいたします。

退場時は密集しないよう、社会的距離を考慮し、適度な距離を保ってご退場ください。

サイン会は実施いたしません。楽屋口等での出演者の入待ち・出待ちはお断りいたします。

出演者へのプレゼントはお預かりすることができませんので予めご了承ください。

厚生労働省による「新型コロナウイルス接触確認アプリ(COCONA)」の活用を推奨いたします。

感染者が発生した場合、チケットご購入者様の個人情報は、必要に応じて保健所等の公的機関へ提供させていただきます。

お客様への連絡の必要が生じた場合、公的機関の指示に従い、早急な対応をいたします。

会場での感染症対策、出演者・楽団員・スタッフの感染症対策については、東京交響楽団公式サイトからご確認ください。



12/5 SAT. 6 SUN.

第687回 定期演奏会

2020年12月5日(土) 6:00p.m. サントリーホール

Subscription Concert Series No.687

Sat. 5th. December 2020, 6:00p.m. Suntory Hall

新潟特別演奏会 2020 初冬

2020年12月6日(日) 5:00p.m. “リゅーとびあ”コンサートホール

Niigata Special Concert 2020 Early Winter

Sun. 6th. December 2020, 5:00p.m. Ryutopia Concert Hall

鈴木雅明 [指揮]

児玉 桃 [ピアノ]

水谷 晃 [コンサートマスター]

Masaaki Suzuki, Conductor

Momo Kodama, Piano

Akira Mizutani, Concertmaster

モーツァルト:ピアノ協奏曲 第21番

ハ長調 K.467 (30')

I. アレグロ

II. アンダンテ

III. アレグロ・ヴィヴァーチェ・アッサイ

休憩(20')

シューベルト:交響曲 第8番

ハ長調 D.944 「グレート」(55')

I. アンダンテ-アレグロ・マ・ノン・トロツポ

II. アンダンテ・コン・モート

III. スケルツォ:アレグロ・ヴィヴァーチェ

IV. フィナーレ:アレグロ・ヴィヴァーチェ

W.A.Mozart: Piano Concerto No.21

in C major, K.467 (30')

I. Allegro

II. Andante

III. Allegro vivace assai

Intermission(20')

F.Schubert: Symphony No.8

in C major, D.944, "Great" (55')

I. Andante - Allegro ma non troppo

II. Andante con moto

III. Scherzo. Allegro vivace

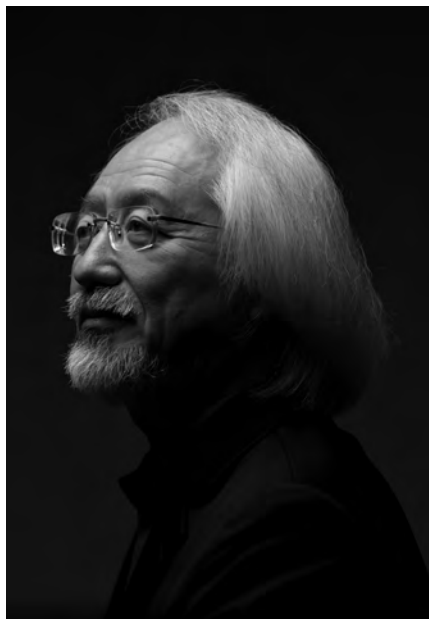
IV. Finale. Allegro vivace

- 主催/公益財団法人東京交響楽団(12/5)、公益財団法人新潟市芸術文化振興財団(12/6)
- 特別協賛/株式会社エイチ・アイ・エス(12/5)
- 助成/文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業)|独立行政法人日本芸術文化振興会(12/5)
文化庁文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等機能強化推進事業)|独立行政法人日本芸術文化振興会(12/6)

※当初の予定から、出演者が変更となりました。

楽曲解説はP.08をご覧ください





©Marco Borggreve

Masaaki Suzuki

Conductor

鈴木雅明 [指揮]

1990年“バッハ・コレギウム・ジャパン (BCJ)”を創設以来、バッハ演奏の第一人者として名声を博す。グループを率いて欧米の主要なホール、音楽祭に度々登場しており、雄弁かつ透明なサウンド、本質に迫る演奏アプローチで、極めて高い評価を積み重ねている。近年はモダン・オーケストラとも活発に共演し、多彩なレパートリーを披露。

2001年ドイツ連邦共和国功労勲章功労十字小綬章、平成23年紫綬褒章など受賞。12年バッハの演奏に貢献した世界的音楽家に贈られる「バッハ・メダル」、ロンドン王立音楽院・バッハ賞を受賞。13年度第45回サントリー音楽賞をBCJと共に受賞。15年ドイツ・マインツ大学よりグーテンベルク教育賞を受賞。イエール大学アーティスト・イン・レジデンス、シンガポール大学ヨン・シウ・トウ音楽院客員教授、神戸松蔭女子学院大学客員教授、東京藝術大学名誉教授、オランダ改革派神学大学名誉博士。

Since founding Bach Collegium Japan in 1990, Masaaki Suzuki has established himself as a leading authority on the works of Bach. He has remained their Music Director ever since, taking them regularly to major venues and festivals in Europe and the USA.

In addition to working with renowned period ensembles, Suzuki is invited to conduct diverse repertoires, with major orchestras such as the Bavarian Radio, Danish National Radio, Gothenburg Symphony, New York Philharmonic, Orchestre Philharmonique de Radio France, San Francisco Symphony, Sydney Symphony and Yomiuri Nippon Symphony Orchestras. This season he visits the NHK Symphony Orchestra, Tokyo Symphony Orchestra and Orchestra of the Age of Enlightenment amongst others.

Suzuki combines his conducting career with his work as an organist and harpsichordist. His impressive discography on the BIS label, features all Bach's major choral works, complete works for harpsichord as well as solo works for organ.



©Marco Borggreve

Momo Kodama

Piano

児玉 桃 [ピアノ]

J.S.バッハからメシアンを含む現代作品まで、幅広いレパートリーと豊かな表現力で活躍を続ける国際派。幼少の頃よりヨーロッパで育ち、パリ国立高等音楽院に学ぶ。1991年、ミュンヘン国際コンクールに最年少で最高位に輝く。

その後、ケント・ナガノ指揮ベルリン・フィル、小澤征爾指揮ボストン響、モントリオール響、ベルリン・ドイツ響、北ドイツ放送交響楽団との共演、デュトワ指揮NHK交響楽団とのアジアツアーのソリストを務めるなど着実に世界的なキャリアを築く。

2013年にはルツェルン音楽祭、ウィグモアホール、東京オペラシティ文化財団の共同委嘱による「細川俊夫：練習曲集」をルツェルン音楽祭にて世界初演、12月には東京オペラシティにて日本初演、翌年ロンドン・ウィグモアホールでも演奏。

CD録音も活発に行い、オクタビア・レコード、ECMより数多くリリースしている。2009年中島健蔵音楽賞および、芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞。パリ在住。

Since becoming the youngest winner of the Concours International ARD in 1991, Osaka-born Momo Kodama has been invited to perform with the Berlin Philharmonic, Boston Symphony Orchestra, Bayerisches Staatsorchester, Royal Liverpool Philharmonic Orchestra, NHK Symphony Orchestra, Orchestre Philharmonique de Monte-Carlo, Orchestre Philharmonique de Radio France, Orchestre de Chambre de Paris, and Düsseldorf Symphoniker Orchestra. She has appeared in recital at the Philharmonie de Paris, Amsterdam Muziekgebouw, Vienna Musikverein, Berlin Philharmonie and Konzerthaus, Suntory Hall, and Théâtre des Champs-Élysées.

Her repertoire extends from the classical and romantic periods to contemporary works, and she is a distinguished interpreter of Olivier Messiaen. She has released two CDs for ECM, "Point and line" (Debussy and Hosokawa) and "La Vallée des Cloches" (Ravel, Takemitsu and Messiaen) which received outstanding acclaim from the New York Times, BBC Music Magazine, Classica, and Télérama. In addition, Momo has recorded two albums for Pentatone (Tchaikovsky and Martinu) in duo with her sister Mari.

12/5 SAT. 6 SUN.

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト(1756～1791)

ピアノ協奏曲 第21番 ハ長調 K.467

先立つピアノ協奏曲第20番(K.466)と同じく演奏会用に作られた協奏曲で、こちらは一ヶ月あとの1785年3月9日に完成されており、翌10日ブルク劇場で初演されている。モーツァルトがもっとも多忙だった時期であり、父は以下のように息子の生活スタイルを書き残している。「夜の1時前に寝たことは一度もないし、食事は2時か2時半、音楽会はほとんど毎日だし、息子はいつも勉強したり、作曲したり、演奏したりで、私と一緒に過ごす時間とてない」。しかしこうした仕事に追われる日々の中でモーツァルトの生活は安定し「僕らは借金を全部返済しましたし、銀行にも貯金できるでしょう。唯一の問題はお金がたくさんある時はそれをどう使うのか慎重に考えなくてはならないこと。さもないとつまらないことに使っているうちにお金はどんどん飛んでいってしまうのですから」と自ら記しているほどである。また、ピアノを弾いているとよく笑う息子のカールが隅っこから顔を出して「ブー」と言う、といったエピソードも伝えられており、なんとも微笑ましい。

そんな日々生まれたピアノ協奏曲第21番はまた前作とはなんと打って変わって陽気で、分かりやすく、またすがすがしいことだろうか。

第1楽章 (アレグロ ハ長調 4/4拍子 協奏曲風ソナタ形式) は、アンダンテ・マエストーノと指定されているが、この指定は同じくハ長調で書かれることになる第25番と共通して興味深い構成も緻密で、隙がなく、立派である。

第2楽章 (アンダンテ ハ長調 2/2拍子 三部形式) は、アンダンテによる夢のカンタービレである。

第3楽章 (アレグロ・ヴィヴァーチェ・アツサイ ハ長調 2/4拍子 二部形式) となり、意気揚々として未来にかけぬけていくようである。

諸石幸生 Text by Sachio Moroishi

作曲：1785年2～3月

初演：1785年3月10日ブルク劇場

編成：独奏ピアノ、フルート1、オーボエ2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、ティンパニ、弦5部

フランツ・シューベルト (1797～1828)

交響曲 第8番 ハ長調 D.944「グレイト」

現在演奏されているシューベルトの8曲の交響曲のうち、最後に位置するハ長調の交響曲第8番は、同じくハ長調の交響曲第6番と区別して「グレイト(大きなハ長調交響曲)」と呼ばれる。従来この作品はシューベルトの最晩年、1828年の作品とされていたが、近年では1825年から26年に作曲されたとする説が有力である。

1824年5月7日には、ベートーヴェンの《交響曲第9番「合唱つき」》がウィーンで初演されている。直前の3月31日付けの手紙の中でシューベルトはこの「ニュース」に言及している。あたかもベートーヴェンの後を引き継がんとばかりに「グレイト」の終楽章には、ベートーヴェン《第九》の「歓喜の歌」が引用されている。

1824年はシューベルトにとって、室内楽の年でもあった。管弦楽のための八重奏曲(D803)や、弦楽四重奏「ロザムンデ」(D804)と「死と乙女」(D810)を完成させている。「死と乙女」に象徴されるように、リート(ドイツ語歌曲)の作曲で習得した旋律美と転調の技術が室内楽へと転換され、さらに彼はそれを「大きな交響曲」への道につなげようとしていた(前出の手紙より)。大規模な構造をもつ「グレイト」も、根底には歌の旋律と室内楽の様式が横たわっている。

第1楽章冒頭のホルン独奏による序章主題、**第2楽章**のオーボエ独奏によるアイロニーに満ちた主題、**第3楽章**の中間部トリオで聴かれる舞曲主題、そして**第4楽章**には「歓喜の歌」がある。これらの豊かな楽想に、弦楽四重奏曲で培った対位法の技術が重ねられ、ソナタ形式の枠組みも大きく拡大される。1828年には「グレイト」と同じハ長調の《大弦楽五重奏曲》(D956)が作曲され、大胆な和声使いで「グレイト」の世界を更に新しい時代へと一歩進めている。なお「グレイト」はシューベルトの兄フェルナンドのところにあった手稿譜をロベルト・シューマンが見つけ、1839年にメンデルスゾーンの指揮で初めて演奏された。メンデルスゾーンは1829年にバッハの《マタイ受難曲》を復活演奏したばかりであった。一方《大弦楽五重奏》の真価を見出したのは、ヨハネス・ブラームスである。古典派からドイツ・ロマン派へのバトンは、シューベルトを媒介に確実に受け渡されたのである。

安川智子 Text by Tomoko Yasukawa

作曲：1825～26年

初演：1839年3月21日ライプツィヒ、フェリックス・メンデルスゾーン指揮、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団

編成：フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ、弦5部

12/16 WED.

[延期公演]川崎定期演奏会 第75回

2020年12月16日(水) 7:00p.m. ミューザ川崎シンフォニーホール

[Rescheduled Concert]Kawasaki Subscription Concert Series No.75

Wed. 16th. December 2020, 7:00p.m. Muza Kawasaki Symphony Hall

原田 慶太楼 [指揮]

Keitaro Harada, Conductor

小林 宥成 [コンサートマスター/客演]

Issei Kobayashi, Concertmaster

藤倉大:海 (20')

D.Fujikura: "Umi " for Orchestra (20')

ブリテン:歌劇「ピーター・グライムズ」より
4つの海の間奏曲 (16')Britten: Four Sea Interludes from
"Peter Grimes"(16')

- I. 夜明け
II. 日曜の朝
III. 月の光
IV. 嵐

- I. Dawn
II. Sunday Morning
III. Moonlight
IV. Storm

休憩(20')

Intermission(20')

ニールセン:序曲「ヘリオス」 作品17 (12')

Nielsen: Helios Overture op.17 (12')

エルガー:エニグマ変奏曲 作品36 (30')

E.Elgar: Variations on an original theme,
op.36, "Enigma" (30')

- 主催/公益財団法人東京交響楽団 ●特別協賛/株式会社エイチ・アイ・エス
- 助成/文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業)|独立行政法人日本芸術文化振興会
- 後援/川崎市、「音楽のまち・かわさき」推進協議会
- 協力/ミューザ川崎シンフォニーホール(川崎市文化財団グループ)

※本公演は、2020年4月26日に予定していた「川崎定期演奏会 第75回」の延期公演です。

※当初の予定から、曲目・出演者が変更となりました。

※本公演はニコニコ生放送でライブ配信されます。

楽曲解説はP.13をご覧ください



12/16 WED.



©Claudia Hershner

Keitaro Harada

Conductor

原田慶太楼 [指揮]

原田慶太楼
正指揮者就任記念コンサート

第689回 定期演奏会

2021年4/17(土) 6:00p.m. サントリーホール

ティケリ:ブルーシェイズ

バーンスタイン:セレナード(ヴァイオリン:服部百音)

ショスタコーヴィチ:交響曲第10番

■一般発売:2021年1/19(火) □東響会員先行販売:1/12(火)

現在、アメリカ、ヨーロッパ、アジアを中心に目覚ましい活躍を続けている期待の俊英。シンシナティ交響楽団およびシンシナティ・ポップス・オーケストラ、アリゾナ・オペラ、リッチモンド交響楽団のアソシエイト・コンダクターを経て、2020年シーズンから、アメリカジョージア州サヴァンナ・フィルハーモニックの音楽&芸術監督に就任。これまでに、国内外の様々なオーケストラと共演。オペラ指揮者としても実績が多く、パリアッチ、カルメン、ねじの回転、ドン・パスクワレ、連帯の娘、トスカなどを手掛けてきた。タングルウッド音楽祭で小澤征爾フエロー賞を受賞し、ナクソス島のアリアドネを上演。13年ブルーノ・ワルター指揮者プレビュー賞、14・15・16・20年米国シヨルティ財団キャリア支援賞受賞。

85年東京生まれ。インターロッキン芸術高校音楽科において、指揮をF.フェネルに師事。オーケストラやオペラのほか、室内楽、バレエ、ポップスやジャズ、そして教育的プログラムにも積極的に携わっている。2021年4月より東京交響楽団正指揮者に就任する。

オフィシャル・ホームページ:

<http://kharada.com/>

In the 2020-21 season, Keitaro Harada begins his tenure as Music & Artistic Director of Savannah Philharmonic and Associate Conductor of the Tokyo Symphony Orchestra.

Recent and upcoming guest conducting includes the symphony orchestras of Houston, NHK, Yomiuri Nippon, Osaka, Tokyo, Seattle, Hawaii, Fort Worth, Indianapolis, Memphis, Louisiana, North Carolina, Phoenix, as well as the New Japan Philharmonic, Tokyo Philharmonic.

In opera, Harada recently led productions of Pagliacci, Carmen, Turn of the Screw, Song from the Uproar, Don Pasquale, Le Fille du Regiment, and Tosca. He conducted Strauss' Ariadne auf Naxos as the Seiji Ozawa Fellow at Tanglewood.

Having completed four seasons as Associate Conductor of the Cincinnati Symphony and Pops, Harada regularly assisted Music Director Louis Langrée and with James Conlon and Juanjo Mena for the May Festival. He is a four-time recipient of The Solti Foundation U.S. Career Assistance Award.

藤倉大(1977～)

海

この作品はもともと僕の1作目のオペラを基に、作曲し直したものです。

出来上がったものはそのオペラとは違った印象を持つ、また別の音楽世界かな、と思います。

やはり、オペラの素材が基なので、この作品は大変リリカルなものです。もともと僕はメロディが書きたい、と思って子供の頃から作曲しているので、僕の中でははっきりとした旋律が常に流れています。時にはメロディとはっきり分からないかもしれないけれど、それを聴く人が、探偵のように耳をすませ、それらを見つけて頭の中で繋げていく。そうすることによって、知らない間に全く知らない世界に入り込んでいた、という空間を僕の書く音で作れたらな、と僕は思います。

今回のこの作品はそういう意味ではとってもわかりやすく、メロディが始終出てきます。そのメロディの間を、弦のトレモロがこちらに迫ってきたり、後ずさりしたりします。弦のトレモロは海の波を表し、海の波は波でも、ちょっと普通の波ではない感じ。幻想の中の海、波。心の中からのざわめきを表したかのような波がだんだんと迫ってくる。その間をうねり歩くように、複数のメロディが楽器によって演奏されます。

一応2楽章には分かれているものの、一つのオーケストラの曲。それなのにいろんな状況が、ぱっと展開して進んでいきます。流れ星のような弦のオーケストラのスタッカートのグリッサンドがあったり、おどけたようなコントラバスとチェロのピッチカートで、よろよろとした部分があったりもします。そのすぐ後に、室内音楽のようなパーソナルな音楽が鳴ったかと思ったり、最後に向けて、盛り上がる中、そこを朗々とチェロとホルンの旋律がうねり歩きます。

僕は昔から海を眺めるのが好きです。それはやはり、いつ海を見ても、同じようには見えない、海にはいろんな表情があるからです。まるで自分の心の中を映し出しているような。宇宙から見た地球の海を見ると必ず涙が流れる、と言っている宇宙飛行士のインタビューを読んだことがあります。

人間は、海を見ると必ず感動するようにデザインされているからだ、と。

藤倉大 TEXT by Dai Fujikura

作曲：2014/2017

初演：2014/2017年

編成：フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット3、トロンボーン1、ヴィブラフォン、大太鼓、鐘、チェレスタ、弦5部

12/16 WED.

ベンジャミン・ブリテン(1913～1976)

歌劇「ピーター・グライムズ」より 4つの海の間奏曲

清らかな調べ、ひんやりとした情趣が開演を彩る。何かが起こる、始まる予感。オペラの主演は、寒村の漁夫ピーター・グライムズ。彼は強情で偏屈ゆえに村民から疎んじられた上、漁夫見習い虐待および殺害の嫌疑をかけられる。精神は錯乱し、船を海に沈め、自殺に追い込まれるのだ。精妙な筆致による海の間奏曲。移ろいゆく海の情景は、悩める主人公の胸の内をも映し出す。そう、この間奏曲は、そう聴こえたとしても海の描写に留まらない。でもどこの海か。20世紀イギリス音楽界の偉人ベンジャミン・ブリテンが愛し、創作の拠点とした北海沿岸の街オールドバラの海だ。ブリテンの名は1945年6月、ロンドンのサドラーズ・ウェルズ劇場で初演された歌劇「ピーター・グライムズ」により、一躍クローズアップされる。作曲家このとき31歳。世界のオペラ史もこの日、塗り変えられた。原作はジョージ・クラップ(1755～1832)の詩集「町(村)」に収められた長編「ピーター・グライムズ」。台本はモンタギュー・スレイター。平和主義者で同性愛者のブリテンは、人々や社会から疎外されたピーター・グライムズに自己を投影し、盟友のテノール歌手ピーター・ピアーズの演唱を前提に、プロローグと3幕から成るオペラを書く。ピアーズは創作の過程に深く関与した。内に外に烈しい「4つの海の間奏曲」はコンサート用に創られた組曲だが、濃密な心理描写も胸をうつ逸品「ピーター・グライムズ」の主幹をなす。

奥田佳道 TEXT by Yoshimichi Okuda

作曲：1944～45年

初演：1945年6月サドラーズ・ウェルズ劇場

編成：フルート2(ピッコロ持替2)、オーボエ2、クラリネット2(小クラリネット持替1)、ファゴット2、コントラ・ファゴット1、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、バス・チューバ1、ティンパニ、鐘、シロフォン、小太鼓、タンブリン、シンバル、銅鑼、大太鼓、ハーブ、弦5部

カール・ニールセン(1865～1931)

序曲「ヘリオス」 作品17

万物創造を思わせる神秘的な低弦に導かれ、ホルンが夜明けの情景を呼び交わす。ヘリオスとは、ギリシャ神話の太陽神のこと。羊飼い、芸術、それに光明を司る神アポロンと同義だ。近年録音や演奏の機会が増えているデンマークの国民的な作曲家カール・ニールセンの人気作のひとつ。それがエーゲ海に昇り、沈む太陽から靈感を受け、1903年春に創られたコンサート用の序曲「ヘリオス」である。著名な彫刻家で妻のアンネ＝マリ・プロデルセンの影響もあり、かねてから地中海沿岸の文化や考古学にも関心があったニールセンは1902年、彼の創作に理解を示していた音楽出版社の計らいでギリシャを訪問することが

出来たのだった。スコアにこう書かれている。「沈黙と暗闇。太陽は賛美の喜ばしい歌とともに昇り、その黄金の道をさすらい、静かに海へと沈む」。曲は1903年10月、かねてからニールセンを評価していた作曲家ヨハン・スヴェンセン(1840～1911)の指揮で初演された。フィンランドの英雄シベリウスと同じ1865年生まれ、ニールセン(古都オーデンセのあるフン島の出身)は、少年期からコレットの演奏や作曲に才能を示し、世界で最も歴史あるオーケストラ、コペンハーゲンのデンマーク王立(歌劇場)管弦楽団のヴァイオリニストとして活動。6曲の交響曲を含めてこのところ再評価の機運が著しい。

奥田佳道 TEXT by Yoshimichi Okuda

作曲:1902～03年

初演:1903年10月 ヨハン・スヴェンセン指揮

編成:フルート3(ピッコロ持替1)、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、バス・チューバ1、ティンパニ、弦5部

エドワード・エルガー(1857～1934)

エニグマ変奏曲 作品36

1899年6月19日にロンドンで初演された後、ドイツやロシア、アメリカなどの諸国で演奏された通称「エニグマ(謎)変奏曲」(オリジナルの主題による変奏曲「謎」)は、イングランドの中西部、ウスターという街の近郊で生まれたエドワード・エルガーの出世作となった。友人・知人、さらには自分自身や愛妻のキャラクターを音楽に投影させた巧妙な変奏曲だが、あえて演奏しない隠し主題もあり、それが「謎」というタイトルに反映されているという。

曲は穏やかな主題で幕を開け、休みなく同じ雰囲気**の第1変奏**(C.A.E.=妻キャロライン・アリス)へ。せわしない**第2変奏**(H.D.S-P.)は、室内楽仲間のヒュー・デヴィッド・スチュアート＝パウエル。おどけたような**第3変奏**(R.B.T.)はアマチュア俳優のリチャード・バクスター・タウンゼンド。力強い**第4変奏**(W.M.B.)は地主のウィリアム・ミース・ベイカー。哀愁が漂う**第5変奏**(R.P.A.)はピアニストのリチャード・ベンローズ・アーノルド。ヴィオラがクローズアップされる**第6変奏**(Ysobel)は、ヴィオラの生徒であるイザベル・フィットン。スピード運転のような**第7変奏**(Troyte)は建築家のアーサー・トロイト・グリフィス。牧歌的な**第8変奏**(W.N.)は友人のウィニフレッド・ノーブリー。休みなくひそやかに始まる**第9変奏**(Nimrod)は、楽譜出版社ノヴェロのスタッフ、アウグスト・イエガー。愛らしい**第10変奏**(間奏曲:Dorabella)は、ドラ・ペニーという女性。急流下りのような**第11変奏**(G.R.S.)は、オルガン奏者であるジョージ・ロバートソン・シンクレアの愛犬が、慌てふためいて川に飛び込んでしまう様子。**第12変奏**(B.G.N.)は、チェリストのバイジル・G・ネヴィンソン。**第13変奏**(ロマンツァ:**)は劇的な人生を送った貴族のメアリー・ライゴンだとされるが、他の女性説もあるなど、これもまた「謎」のひとつ。全曲を閉じる**第14変奏**(フィナーレ:E.D.U.)はエルガー本人の自画像である。

オヤマダアツシ TEXT by Atsushi Oyamada

作曲:1898年～1899年

初演:1899年6月19日、ロンドン、セント・ジェームズ・ホール。ハンス・リヒター指揮。

編成:フルート2(ピッコロ持替1)、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、コントラ・ファゴット1、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、バス・チューバ1、ティンパニ、小太鼓、トライアングル、大太鼓、シンバル、オルガン、弦5部

12/23 WED.

東京オペラシティシリーズ 第119回

2020年12月23日(水) 7:00p.m. 東京オペラシティコンサートホール

Tokyo Opera City Series No.119

Wed. 23rd. December 2020, 7:00p.m. Tokyo Opera City Concert Hall

秋山和慶 [指揮]

森野美咲 [ソプラノ]

鳥木弥生 [メゾソプラノ]

小原啓楼 [テノール]

大山大輔 [バリトン]

新国立劇場合唱団 [合唱]

河原哲也 [合唱指揮]

水谷晃 [コンサートマスター]

Kazuyoshi Akiyama, Conductor

Misaki Morino, Soprano

Yayoi Toriki, Mezzo-soprano

Keiro Ohara, Tenor

Daisuke Oyama, Baritone

New National Theatre Chorus, Chorus

Tetsuya Kawahara, Chorusmaster

Akira Mizutani, Concertmaster

ベートーヴェン:

「エグモント」序曲 作品84 (9')

L.v.Beethoven :

"Egmont" Overture, op.84 (9')

ベートーヴェン:交響曲 第9番 二短調

作品125「合唱付」(70')

L.v.Beethoven : Symphony No.9

in D minor op.125 "Choral" (70')

I. アレグロ・マ・ノン・トロツポ、ウン・ポコ・マエストロソ

II. モルト・ヴィヴァーチェ〜プレスト

III. アダージョ・モルト・エ・カンタービレ

IV. プレスト〜アレグロ・アッサイ

I. Allegro ma non troppo, un poco maestoso

II. Molto vivace - Presto

III. Adagio molto e cantabile

IV. Presto - Allegro assai

●主催/公益財団法人東京交響楽団 ●特別協賛/株式会社エイチ・アイ・エス

●助成/文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業)|独立行政法人日本芸術文化振興会

※当初の予定から、出演者が一部変更となりました。

※この公演は休憩がありません。

楽曲解説はP.23をご覧ください



12/28 MON. 29 TUE.

特別演奏会「第九」2020

2020年12月28日(月) 6:30p.m. サントリーホール

2020年12月29日(火) 2:00p.m. サントリーホール

Special Concert

Mon. 28th December 2020, 6:30p.m. Suntory Hall

Tue. 29th December 2020, 2:00p.m. Suntory Hall

ジョナサン・ノット [指揮]

ジャクリン・ワーグナー [ソプラノ]

カトリオーナ・モリソン [メゾソプラノ]

クリスティアン・エルスナー [テノール]

リアン・リ [バスバリトン]

新国立劇場合唱団 [合唱]

河原哲也 [合唱指揮]

水谷 晃 [コンサートマスター]

Jonathan Nott, Conductor

Jacquelyn Wagner, Soprano

Catriona Morison, Mezzo-soprano

Christian Elsner, Tenor

Liang Li, Bass-baritone

New National Theatre Chorus, Chorus

Tetsuya Kawahara, Chorusmaster

Akira Mizutani, Concertmaster

ベートーヴェン:交響曲 第9番 二短調

作品125「合唱付」(70')

I. アレグロ・マ・ノン・トロップ、ウン・ポコ・マエストーゾ

II. モルト・ヴィヴァーチェ〜プレスト

III. アダージョ・モルト・エ・カンタービレ

IV. プレスト〜アレグロ・アッサイ

L.v.Beethoven : Symphony No.9

in D minor, op.125 "Choral" (70')

I. Allegro ma non troppo, un poco maestoso

II. Molto vivace - Presto

III. Adagio molto e cantabile

IV. Presto - Allegro assai

●主催/公益財団法人東京交響楽団

●特別協賛/華為技術日本株式会社(ファーウェイ・ジャパン)

●後援/在日スイス大使館、プリティッシュ・カウンシル

*当初の予定から、出演者が一部変更となりました。

楽曲解説はP.24をご覧ください



12/23 WED.



Kazuyoshi Akiyama

Conductor

秋山和慶

[指揮]

Conductor Laureate
桂冠指揮者

1941年生まれ。斎藤秀雄のもとで指揮法を修め、1963年に桐朋学園大学音楽学部を卒業。1964年2月に東京交響楽団を指揮してデビューののち同団の音楽監督・常任指揮者を40年間にわたり務める。その間、アメリカ響音楽監督、バンクーバー響音楽監督(現在桂冠指揮者)、シラキウス響音楽監督などを歴任。また、ニューヨーク・フィル、ボストン響、クリーヴランド管、シカゴ響、ケルン放響、ベルリン放響、北ドイツ放響、スイス・ロマン管など世界の一流オーケストラに客演している。

これまでにサントリー音楽賞、芸術選奨文部大臣賞、大阪芸術賞、毎日芸術賞、川崎市文化賞、京都音楽賞大賞などを受賞。2001年紫綬褒章、2011年旭日小綬章を受章。2014年度文化功労者に選出。

現在、中部フィルハーモニー交響楽団芸術監督・首席指揮者、日本センチュリー交響楽団ミュージックアドバイザー、東京交響楽団桂冠指揮者、広島交響楽団終身名誉指揮者、九州交響楽団桂冠指揮者など多くの任を務めるほか、洗足学園音楽大学芸術監督・特別教授、京都市立芸術大学客員教授を務めている。

Born in 1941, Kazuyoshi Akiyama studied conducting under Hideo Saito at the Toho Gakuen School of Music. Akiyama has held prestigious posts such as Music Director of the American Symphony Orchestra (1973-1978) and the Vancouver Symphony Orchestra (1972-1985). During this time, Akiyama's reputation spread to Europe and throughout North America, where he has been invited to conduct the Royal Philharmonic Orchestra, the NDR Symphony Orchestra, the Orchestre de la Suisse Romande, the New York Philharmonic, the Boston Symphony Orchestra and many others.

He is the recipient of numerous highly prestigious honors in Japan including the Person of Cultural Merit (2014) for his outstanding cultural contributions.

Akiyama currently holds the title of Conductor Laureate of the Tokyo Symphony Orchestra, the Kyushu Symphony Orchestra and the Vancouver Symphony Orchestra; Honorary Conductor for Life of the Hiroshima Symphony Orchestra, and Permanent Conductor and Music Director/Principal Conductor of the Chubu Philharmonic Orchestra.

In 2014, he celebrated the 50th anniversary of his conducting career.

Misaki
Morino
Soprano

森野美咲
【ソプラノ】



岡山市出身、ウィーン在住。ブラームス国際コンクール、日本音楽コンクール優勝。

ウィーン楽友協会、コンツェルトハウス、シュタイヤー秋の音楽祭等で数々のオペラやコンサートに出演。ウィーンフィル夏のアカデミー「偽の女庭師」では題名役に抜擢、オーストリアツアーを成功させ、プロ野球オールスター戦開幕式にて国歌独唱を務めるなど、今後も国内外での活躍が期待される注目の若手ソプラノ。令和元年五島記念文化賞オペラ新人賞、岡山芸術文化賞グランプリ、マルセン文化特別賞受賞。東京芸術大学卒業、ウィーン国立音楽大学修士課程首席修了。

Yayoi
Toriki
Mezzo-soprano
鳥木弥生
【メゾソプラノ】



武蔵野音楽大学卒業。リクルートスカラシップ制度奨学生として渡伊。フィレンツェ市立歌劇場オペラスタジオ及びF.バルビエリの元で研鑽を積む。平成19年度文化庁新進芸術家海外留学制度研修員として渡仏し、J.レイスに師事。パリ・エコールノルマル音楽院オペラ芸術科のディプロマを最高位で取得。第1回「E.オプラスツォワ」、第42回「ヴェルディの声」など国際コンクール等多数入賞。02年フィレンツェ市立歌劇場「ジャンニ・スキッキ」でデビュー後、ルッカ他にて「外套」フルーゴラ、クレルモン＝フェランにて「ジャミレ」題名役、パルセロナなどでは「蝶々夫人」スズキ等で活躍。15年岩城宏之音楽賞受賞。藤原歌劇団員。

Keiro
Ohara
Tenor
小原啓楼
【テノール】



東京藝術大学卒業、同大学院博士号取得。二期会『蝶々夫人』ピンカートン、新国立劇場『沈黙』ロドリゴ、日生劇場『リア』エドマンドの他、ロームシアター京都及び二期会『フィデリオ』フロレスタンでの力強い歌唱が絶賛を浴びる一方、新国立劇場『夕鶴』与ひょうにおける繊細な日本語歌唱も美しく、高い評価を得ている。同役では、外務省主催「ロシアにおける日本年」に参加し、マリインスキー劇場でも演じる等国内外で活躍。ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェン、ヴェルディ、マーラー、ブリテン等コンサートレパートリーも幅広い。二期会会員

Daisuke
Oyama
Baritone
大山大輔
【バリトン】



©Yoshinobu Fukaya

東京藝術大学首席卒業。同大学院修了。“井上道義×野田秀樹”による《フィガロの結婚》フィガロや、手塚治虫原作・宮川彬良作曲 歌劇《ブラック・ジャック》タイトルロール。など独自性の強い作品での主役として圧倒的な存在感を示している。また役者として演劇作品への出演や、劇団四季ミュージカル《オペラ座の怪人》ではタイトルロールとして客演するなど幅広く活躍。洗足学園音楽大学ミュージカル・声楽コース講師、カクシンハン・スタジオ（演劇研修所）講師。

12/28 MON. 29 TUE.



©K.Miura

Jonathan Nott

Conductor

ジョナサン・ノット
[指揮]

Music Director
音楽監督

イギリス生まれ。フランクフルトとヴィースバーデンの歌劇場で指揮者としてのキャリアをスタートし、ルツェルン交響楽団首席指揮者兼ルツェルン劇場音楽監督、アンサンブル・アンテルコンタンポラン音楽監督、バンベルク交響楽団首席指揮者を経て、2014年度より東京交響楽団第3代音楽監督。2017年からはスイス・ロマンド管弦楽団の音楽監督も務めている。その抜群のプログラミング・センスに加え、古典から現代曲まで幅広いレパートリーを誇り、ベルリン・フィル、ウィーン・フィル、コンサートヘボウ管、シカゴ響等のオーケストラ、ザルツブルク音楽祭、ルツェルン音楽祭、BBCプロムス等の音楽祭へ客演している。ウィーン・フィルやベルリンフィルとの録音のほか、東京交響楽団とはオクタヴィアレコードより9つのCDをリリースしている。2020年3月第32回ミュージック・ペンクラブ音楽賞「オペラ・オーケストラ部門」を東京交響楽団とともに受賞した。

Well known for the power, vigour and clarity of his interpretations of Mahler's works, Jonathan Nott has been music director of the Tokyo Symphony Orchestra since 2014. He was also appointed as Music and Artistic Director of the Orchestre de la Suisse Romande as from 2017 and had been principal conductor of the Bamberg Symphony Orchestra for 16 years. Mr. Nott began his career at the opera houses in Frankfurt and Wiesbaden where he conducted all major works of the repertoire including Wagner's complete Ring cycle. Mr. Nott has a large catalogue of highly acclaimed recordings by the Orchestre de la Suisse Romande, the Bamberg Symphony Orchestra, the Berlin Philharmonic, and the Vienna Philharmonic Orchestra as well as recordings with the Tokyo Symphony Orchestra. In 2020, Mr. Nott and Tokyo Symphony Orchestra won the Best Orchestra of the 32th Music Pen Club Music Award.

Jacquelyn
Wagner
Soprano

ジャクリン・
ワグナー

【ソプラノ】



©Simon Pauly

アメリカ、ミシガン州出身。パリ国立オペラ、スカラ座、チューリッヒ歌劇場、リセウ大劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、ザルツブルク音楽祭などに多数出演。数多くのレパートリーで成功を収めており、中でもR.シュトラウス、ワーグナー、ウェーバーは高い評価を得た。今シーズンは、アリス・フォード（ファルスタッフ）、アガーテ（魔弾の射手）、コンテツサ（フィガロの結婚）を演じたほか、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管とのマラー《交響曲第8番》も予定されている。

Catriona
Morison
Mezzo-soprano

カトリオーナ・
モリソン

【メゾソプラノ】



©Claudia Scheer van Erp

スコットランド、エジンバラ出身。英国王立スコットランド音楽院（RCS）、ベルリン芸術大学、フランツ・リスト・ヴァイマル音楽大学で学ぶ。2016年から2018年までヴッパータール歌劇場のアンサンブルに、その後レジデント・アーティストに就任。2019年にはエリム・チャン指揮、BBC国立ウェールズ管弦楽団とエルガー《海の絵》で共演しBBCプロムスデビューを果たして以降、BBCの新世代アーティストとして注目を集める。2017年に英国王立スコットランド音楽院の名誉教授称号を授与。

Christian
Elsner
Tenor

クリスティアン・
エルスナー

【テノール】



©Detlef Kurth

ドイツ、フライブルク出身。マルティン・ブルリュンドル、ディートリヒ・フィッシャー＝ディースカウに師事し、ミュンヘン国際音楽コンクールをはじめとした数々の国際コンクールで優勝。2006年より、ヴェルツブルク音楽大学教授。幅広いコンサートレパートリーを持ち、様々なコンサートやリサイタル、オペラで活躍。ベルリンフィルハーモニー管、ヘルベルト・ブロムシュテット、マレク・ヤノフスキ、マリス・ヤンソンス、ヤニック・ネゼ＝セガン、サー・サイモン・ラトルらと定期的に共演している。

Liang
Li
Bass-baritone

リアン・リ

【バリトン】



©Martin Sigmund

中国出身。今最も人気のあるバリトン歌手の1人。ベルリン・ドイツ・オペラ、ハンブルク州立歌劇場、オペラ・バステューユ、ゼンパー・オーパー、ポリショイ劇場、北京国際音楽祭などに数多く出演。ズービン・メータ、マリス・ヤンソンス、チョン・ミョンフン、サー・サイモン・ラトル、ドナルド・ラニクルズ、フランソワ・グザヴィエ・ロトラ指揮者や、ミュンヘン・フィル、ピッツバーグ響、バイエルン放送響と共演。2016年、シュトゥットガルト州立歌劇場の名誉称号Kammersängerを授与。

12/28 MON. 29 TUE.

Tetsuya Kawahara

Chorusmaster

河原哲也 [合唱指揮]

東京音楽大学指揮科卒業。東京音楽大学研究科指揮専攻修了。

指揮を三石精一、松本紀久雄、音楽理論を有馬礼子の各氏に師事。

大学在学中よりオペラ公演の音楽スタッフとして活動を始め、現在、新国立劇場・東京二期会・日本オペラ振興会等に於いて音楽スタッフとして合唱指揮・副指揮を務めている。

また埼玉オペラ協会をはじめ各地のオペラ団体の公演を指揮し、好評を得ている。

New National Theatre Chorus

新国立劇場合唱団 [合唱]

新国立劇場は、オペラ、バレエ、ダンス、演劇という現代舞台芸術のためのわが国唯一の国立劇場として、1997年10月に開場した。新国立劇場合唱団も年間を通じて行われる数多くのオペラ公演の核を担う合唱団として活動を開始。メンバーは100名を超え、新国立劇場で上演されるシーズン公演の出演に加え、2007年からは劇場外からの出演依頼の声に応じて外部公演への出演を開始した。個々のメンバーは高水準の歌唱力と演技力を有しており、合唱団としての優れたアンサンブル能力と豊かな声量は、公演ごとに共演する出演者、指揮者、演出家・スタッフはもとより、国内外のメディアからも高い評価を得ている。



【魔笛】2018年10月公演より 撮影：寺司正彦 提供：新国立劇場

12/23 WED.

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン(1770～1827)

「エグモント」序曲 作品84

英雄の存在は、芸術創作に大きな影響を与えるもの。ナポレオンという英雄と同時代に生きたベートーヴェンがナポレオンを契機に交響曲第3番「英雄」を作曲したことは有名だが、劇音楽「エグモント」もナポレオンと関係する社会的背景から誕生している。そして作品自体も、ある英雄を描いたものである。

1809年4月、オーストリア軍はナポレオン率いるフランス軍を攻撃するが、その後フランス軍にウィーンを占拠され、降伏。10月に講和条約を締結する。そんな状況下でもウィーンでは舞台が数多く上演されており、宮廷劇場の支配人ヨーゼフ・ハルトルは2作の芝居の上演を計画する。それは、シラーの「ヴィルヘルム・テル」(1804年)とゲーテの「エグモント」(1788年)。どちらも祖国が自由を勝ち取る物語であり、これらで市民を鼓舞しようと考えたのだ。ハルトルは2人の作曲家にそれぞれの戯曲の音楽を書いてもらおうと企画し、「ヴィルヘルム・テル」はボヘミアの作曲家アダルベルト・ギロヴェッツに依頼。そして「エグモント」の作曲者としてベートーヴェンに白羽の矢を立てた。

ゲーテの「エグモント」は、オランダの英雄ラモラール・ファン・エグモント(蘭語ではエフモント)伯爵(1522～68)をモデルにした5幕からなる悲劇。エグモントは、スペインの支配下にあった低地諸州(ネーデルラント)が独立を勝ち取るオランダ独立戦争(八十年戦争/1568～1648)を導いた初期の人物で、スペインの弾圧に抵抗したため大逆罪で捕まり、1568年6月にブリュッセルで処刑された。戯曲ではハインリヒ・エグモント伯爵という名で描かれ、恋人クレールヒェン(実際のエグモントには妻子がいたが、戯曲では恋人の設定)は捕えられたエグモントを救うことができず絶望のあまり自殺。処刑の前夜、エグモントは夢の中で、女神となったクレールヒェンの幻影に“勝利者”だと讃えられ、朝、処刑場へ向かうところで幕となる。そんな劇にベートーヴェンは序曲と9つの曲を作曲したが、公演初日に序曲の作曲が間に合わず、公演4日目にして初めて音楽付きで上演された。

序曲はハ短調の曲。劇的なFの音で始まり、エグモントの揺るがぬ信念を表現するような厳かな響きと、ネーデルラントの人々の苦悩を表すような嘆きの旋律による導入ののち、主部のアレグロへ。焦燥に駆られるような主題によって、力強くリズムカルに展開していく。最後は、劇の第9曲「勝利の行進曲」が登場してハ長調になり、輝かしく締めくくる。

神原律子 TEXT by Ritsuko Sakakibara

作曲:1809～1810年

初演:1810年5月24日ブルク劇場

編成:フルート2(ピッコロ代替1)、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、ティンパニ、弦5部

12/23 WED. 28 MON. 29 TUE.

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン(1770~1827)

交響曲 第9番 二短調 作品125「合唱付」

ベートーヴェンが《第九》を書いた当時、その社会は、現代の我々の想像を超えて重苦しい状況にあった。ナポレオンが失脚したあと、1814年から1815年にかけて開かれたウィーン会議を境に、ドイツ・オーストリアの状況は、1789年のフランス革命より前の状態、いや、それどころかもっとひどい状態に逆戻りしてしまったのだ。オーストリア外相メッテルニヒの保守的な圧政によって街にはスパイがあふれ、さらに1820年代前後には検閲システムが公的に作動し始め、政治的な異議を唱える出版物が禁じられるようになった。とくに大学関係者や芸術家は検閲や監視の対象となり、ベートーヴェンの会話帳からも彼がスパイににらまれている様子を読みとることができる。こうした時局のなか、周囲の証言からは、ベートーヴェンが社会的不安や憤り、愛国的な感情をため込んでいたことがうかがえる。こうした感情が、交響曲というパブリックなジャンルののもと、コンサートホールという公共空間で、しかも過激な自由思想を人々に解き放ったフリードリヒ・フォン・シラーの「歓喜に寄す」の言葉を活用して、大作を世に送り出そうという企図へと結実した。このような背景に目をやると、本作は、平和や平等への単なる希求にとどまるものではなく、人間に許された自由を勝ちとろうとする明確な決意表明である、と受けとることができるだろう。

さて、初演はどんな様子だったのだろうか。ベートーヴェンは、総指揮者ミヒャエル・ウムラウフの隣に立ち、楽章ごとに始まりのテンポを指示したという。管楽器の数は2倍、合唱は劇場所属の少年たちを含むおよそ90名という大編成であった。第2楽章は、喝采のあげくアンコールを求められたという。ソプラノ独唱のヘンリエッテ・ゾンタークとアルト独唱のカロリーネ・ウンガーは、20歳前後の若き歌手であったが、当時すでに人気を集めており、この作曲家もずいぶん気に入っていたことが手紙に表れている。いっぽうの男声独唱者に関しては、初演間際に2人とも交代しており、どうやらかなりバタバタしたようだ(もろもろの準備が間に合わなかったため、初演は当初の予定日から延期されている)。なお、初演プログラムは《献堂式》序曲、《ミサ・ソレムニス》から〈キリエ〉〈クレド〉〈アニュス・デイ〉、そして《第九》であった。

作曲は、断続的に、そして長きにわたる試行錯誤のなか進捗していった。交響曲に声楽パートを導入しようというアイデア自体は、早くも1818年のスケッチ帳に読むことができる。1822年に同じスケッチ帳に書き込まれたメモには、「歓喜に寄す」の詩の冒頭にメロディがつけられてもいる—ただしこのメロディは、我々が知る4分の4拍子のものとは異なる8分の3拍子で書かれており、興味深い。これらの断片が《第九》へと結実するためには、もうしばらくの時間が必要だったようだ。シラーの詩(初版:1786年、改訂版:1803年)に関しては、ベートーヴェンはかなり早い時期、おそらくボン大学の聴講生時代(1789年5月以降)に聞き知っていたようで、ほかの曲でもこの詩を用いている。また、彼のほかにも多くの作曲家によって歌曲として付曲されているので(例えばシューベルトのD189)、これを機会にぜひ比較してみてほしい。

第1楽章 アレグロ・マ・モン・トロppo、ウン・ポコ・マエストーン

冒頭でホルンと弦楽器が奏する原初的な和音は、長調とも短調とも判別しがたいおぼろな幕開けを告げる。その後、2オクターヴにわたる二短調の主要主題が、さまざまに展開されてゆく。ただし、長調の主題はつかの間現れるにとどまり、全体の音調は悲劇的といえる。

第2楽章 モルト・ヴィヴァーチェ〜プレスト

急速なテンポで疾走する主部と、長調に転換した静的な中間部(トリオ)とのコントラストがざやかだ。

第3楽章 アダージョ・モルト・エ・カンタービレ

全体は8つの部分に分けられる。その各部分が、抒情あふれるメロディを冥想するかのように変奏してゆく。

第4楽章 プレスト〜アレグロ・アッサイ

テンポと拍子が目まぐるしく変化するフィナーレ。「恐怖のファンファーレ」と呼ばれる不協和の一撃で始まる。その後、第1〜3楽章のメロディがそれぞれ回想されるが、これらはバス独唱によって否定され(「おお友よ、こんな音楽はよそう!」)、歓喜主題が器楽によって奏でられる。再び「恐怖のファンファーレ」が現れると、今度は声楽が歓喜主題を引き継ぐ。打楽器を活かしたトルコ軍楽風の行進曲や、トロンボーンが登場する教会音楽風のセクション、2つの主題に基づく二重フーガのセクション、オペラ・アリア風のセクションなど、絵巻物を見るかのごとくさまざまな様式が並べられ、圧倒的なクライマックスを築く。

西田紘子 TEXT by Hiroko Nishida

作曲：1818年、1822～1824年

初演：1824年5月7日ウィーン、ミハエル・ウムラウフ指揮

編成：ピッコロ1、フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、コントラファゴット1、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ、トライアングル、シンバル、大太鼓、弦5部、独唱(ソプラノ、メゾソプラノ、テノール、バリトン)、混声合唱

12/23 WED. 28 MON. 29 TUE.

L.v.Beethoven:

Symphony No.9 in D minor, op.125, "Choral"

[歌詞対訳]

ベートーヴェン:交響曲 第9番 二短調 作品125「合唱付」

訳: 船木篤也

**Aus "Ode an die Freude"
von Friedrich Schiller****Baritone Solo**

○ Freunde, nicht diese Töne!
Sondern lasst uns angenehmere
anstimmen und freudenvollere!

Baritone Solo & Chorus

Freude, schöner Götterfunken,
Tochter aus Elysium,
Wir betreten feuertrunken,
Himmlische, dein Heiligtum.
Deine Zauber binden wieder,
Was die Mode streng geteilt;
Alle Menschen werden Brüder,
Wo dein sanfter Flügel weilt.

Quarter & Chorus

Wem der große Wurf gelungen,
Eines Freundes Freund zu sein;
Wer ein holdes Weib errungen,
Mische seinen Jubel ein!
Ja, wer auch nur eine Seele
Sein nennt auf dem Erdenrund!
Und wer's nie gekonnt, der stehle
Weinend sich aus diesem Bund!

Freude trinken alle Wesen
An den Brüsten der Natur,
Alle Guten, alle Bösen
Folgen ihrer Rosenspur.
Küsse gab sie uns und Reben,
Einen Freund, geprüft im Tod,
Wollust ward dem Wurm gegeben,
Und der Cherub steht vor Gott.

Tenor Solo & Chorus

Froh, wie seine Sonnen fliegen
Durch des Himmels prächt'gen Plan,
Laufet, Brüder, eure Bahn,
Freudig wie ein Held zum Siegen.

Chorus

Seid umschlungen, Millionen!
Diesen Kuss der ganzen Welt!
Brüder über'm Sternenzelt
Muss ein lieber Vater wohnen.

Ihr stürzt nieder, Millionen?
Ahnest du den Schöpfer, Welt?
Such ihn über'm Sternenzelt,
Über Sternen muss er wohnen.

**フリードリヒ・シラー
「歓喜に寄す」より****バリトン独唱**

おお友よ、こんな音楽はよそう!
ここからは、もっと快い、喜ばしい
音楽を始めようではないか! (ベートーヴェン作)

バリトン独唱と合唱

喜びよ、神々のうるわしき火花よ
エリュシオンの娘よ
われらはその火花に酔いしれ
この上なきお前、お前の聖域に入る
お前の魔力は、この世のしきたりが
容赦なくひき裂いたものを、ふたたび結びつけてくれる
人はみな兄弟となる
お前の翼に、そっとまもられて

四重唱と合唱

ある者の友となる
幸せを得た者は
やさしい妻を手にした者は
この歓呼に加わりたまえ!
そう、ただ一人でもかまわない
この地球上に、自分のものと呼べる人があるならば!
それがどうしてもできない者は、ひっそりと
涙して、この同盟から出てゆくがよい!

生きとし生けるもの、喜びを
自然の乳房よりすすする
善人も、悪人も
自然が敷く、ばら色の道をゆくばかり
自然はわれらに、幾多のくちづけを、たわわなる葡萄を
死を耐えぬいた友を与えてくれた
虫にも快樂が分け与えられたのだ
智天使ケルブが、神の御前に立っている!

テノール独唱と合唱

意気揚々、星々が
天の輝かしい軌道を、飛びめぐるように
ゆけ、兄弟たちよ、おのれの道を
喜び勇んで、勝利にむかう英雄のように!

合唱

抱かれてあれ、もろ人よ!
この口づけを、全世界に!
兄弟たちよ、天穹(てんきゅう)のかなたに
愛する父は、おられるはず

もろ人よ、ひれ伏しているか?
人の世よ、かの創造者を予感するか?
天穹のはるかかなたに、求めるがよい
星辰(せいしん)のかなたに、かの人はおられるはず

Symphony Lounge [シンフォニー・ラウンジ]

特別対談 今年、第九を演奏するということ

私たちにとっての《第九》

辻:東京交響楽団の第九公演にはもう40年以上の歴史があります。毎年全国各地の合唱団と何度も演奏しますが、やはり飽きることがない。オーケストラにとって大事なレパートリーで、今後もずっと追いつけるもののだと思っています。

林:クラシック音楽の好きな方々は「第九がないと一年が終わらない」といった感想をお持ちの方がとても沢山いると思います。特にベートーヴェン生誕250年の記念の年に、第九が演奏される機会が少なくなるというのは、残念なことですね。

《監修》までの流れ

辻:今年3月、まだこのコロナ禍について先が見えない時期に、とある演奏会の感染症対策を林先生がされていたという話を聞いて。第九の相談をしたら「今年はやめたほうがいいんじゃないですか」というお話でした。林先生もかなりの音楽好きでいらして、だからこそ「無理をしてでもやる」のではなく「やめたほうがいい」と最初に言っていただけの

は、逆に信頼できるかなと思いました(笑)。

林:当時は、COVID-19に関して科学的に未知のことがあまりにも多く、日本国内のムードも極めて悲観的でしたので率直に言いました。第九以外にもベートーヴェンには素晴らしい作品は沢山ありますし、なにも今年第九を演奏しなくてもよいのではないかと。しかし、その後、日本における感染状況は幸いにして欧米のような悲惨な状況にはならず、日本政府や日本社会全体も経済活動・社会活動再開を容認するムードになりました。COVID-19に関する医学的知見も増えました。東響さんも「第九公演をなんとしてもやりたい」という強い意志を私に示されました。行政当局から自粛要請が出ているのであればそれに従うべきですが、「第九公演をやるかやらないか」を医学的・科学的に判断することは困難です。東響さんや聴衆の価値観も大切です。今回は東響さんの「第九をやるんだ」という強い意志を感じたので、ゼロリスクは目指せないけれども聴衆・演奏者・スタッフの感染リスクが少しでも小さくなるような医学的アドバイスをしたいと思ったのです。

《第九》のリスクとは

林:第九特有の問題としては、やはり合唱が入るということです。歌うという行為で飛沫が飛びますのでそのリスクをどう下げるかを考える必要がありました。一方で、プロの芸術家として質の高い演奏をしなければならないという価値観の尊重も重要です。そのために、まずは、音楽がしっかり表現できる範囲内で合唱団の人数を可能な限り減らす。そしてコンサートホールのように空調がしっかりした環境で練習をする。練習の回数や練習時間を極力減らす。これらの条件を満たす方法を考えた結果、プロの合唱団(またはそれに準じる合唱団)でないと、今年の年末に第九公演を実現するのは難しいと考えました。

年末の第九公演でプロのオーケストラと共演することを大きな目標とし楽しみにしているアマチュア合唱団が多くあることは理解していましたが、第九公演や合唱を伴う公演の経験値が乏しい現状で、上記の条件の整い難しいアマチュア合唱団と数ヶ月後に第九公演に挑戦するのはあまりにもハードルが高すぎ

ると思いました。4人のソリストの位置をステージ前方にする場合には、客席最前列との間の距離に注意する必要があると思います。

辻:ソリストの立つ位置は指揮者によって好みがあるので、指揮者と相談しつつ、ステージマネージャーと図面をみて具体的に詰めていく予定です。現時点では今でているガイドラインに基づき、一部座席を売り止めにしてはいますが、最終的な実験の結果によって、そこを販売していくことも考えています。

演奏会を“満席”に

林:クラシック音楽の演奏会で、客席を満席で開催するのは、客席収容人数を半分以下にした場合に比べて高いリスクになるということを疑問視していた人は少なくないと思います。クラシックの演奏会は、世界で最も静かな場所と言っても過言ではありません。小声で話すことすら許されない環境です。生理的な咳は抑えられない場合もありますが、多くの人はそれも加減しますし、しかもコロ

辻 敏

(東京交響楽団 事務局長)

Symphony Lounge

[シンフォニー・ラウンジ]

[特別対談]

今年、第九を演奏するということ

ナ以降の聴衆は皆さんマスクをしています。さらに、クラシック音楽専用ホールは、収容人数に対し十分な容積と換気条件を備えています。

クラシックの演奏会もイベントという大きなカテゴリーの中に入れて、大声を張り上げたり人が入り乱れたりするようなイベントと同じカテゴリーに入れてしまうのはクラシック音楽関係者としては納得しなかったと思います。7月に私と何人かの専門家達で長野県茅野市の実験施設で実験を行いました。マスクをしていれば仮に咳をしても、すぐ隣の席の位置やすぐ前方の席の位置で、飛沫を殆ど観測することはできませんでした。その実験結果を元に日本クラシック音楽事業協会をとおして政府に要望を出し、ようやく9月にクラシック音楽の演奏会の客席を満席にすることが政府から容認されました。

それでも第九をやるということ

注: これまでも人間はウイルスと長く付き合ってきたのだと思いますが、いろいろ調べ

てみると、感染症が流行した後に、世の中が良い方向に向かう時と悪い方向に行く時と両方あるんですよ。長引くこの状況は本当にこたえますが、いつか終息した時に、特に文化を職業にしている我々がとにかく頑張って良い方向に乗り越えて行かないといけな、とつくづく思っています。そういった意味では、ベートーヴェン生誕250周年の最後に、日本で積極的に演奏会が行えているという事が、今我々にとっては非常に誇らしく、ラッキーだったな、良かったなという風にも思えます。

林: 苦悩に始まり最終的に大きな喜びに繋がる《第九》。本来であれば一年を振り返り、晴れやかに終わらせようという意味も込められているでしょう。ですが今年は皆さん複雑な思いで聴かれるのではないかと思います。12月の段階で真に歓喜を分かち合える状況に世界がなっているとは考え難いです。近い未来に、平和な日々があったらいいなと、そういう願いを込めて聴く方が多いのではないのでしょうか。

[2020年10月]

林 淑朗

(亀田総合病院 集中治療科部長)

PROFILE

林 淑朗

1972年群馬県前橋市生まれ。群馬大学医学部医学科卒。群馬大学大学院医学系研究科博士課程修了。医学博士。集中治療専門医。麻酔科指導医・専門医。群馬大学医学部附属病院集中治療部助教、オーストラリアのロイヤル・プリズベン・アンド・ウィメンズ・ホスピタル集中治療科、グリーンズランド大学臨床研究センター上級講師を経て2013年より現職。趣味は音楽鑑賞とピアノ演奏。好きな作曲家はベートーヴェン。

Together With TSO

for Music Lovers

東京交響楽団サポート会員

©N Ikegami

ご芳名 (敬称略)

法人会員

プラチナ会員

株式会社エイチ・アイ・エス
ハウステンボス株式会社
株式会社ドワンゴ

ダイヤモンド会員

有限責任 あずさ監査法人
株式会社伊藤総合事務所
株式会社インサイド・アウト
花王株式会社
環境ステーション株式会社
学校法人創志学園
株式会社ティーワイ リミテッド
株式会社日本財託
ピーアークホールディングス株式会社
株式会社フェイス

ゴールド会員

株式会社青山メインランド
イーサポートリンク株式会社
サントリーホールディングス株式会社
新菱冷熱工業株式会社
セントラル短資FX株式会社
社会医療法人財団石心会
玉川学園・玉川大学
玉の肌石鯨株式会社
中外製薬株式会社
株式会社TFDコーポレーション
株式会社鉄鋼ビルディング
株式会社トーションパートナーズ
西松建設株式会社
株式会社NIPPO
株式会社日本M&Aセンター
株式会社パソナグループ
ヒノキ新薬株式会社
司法書士法人ふなざき総合事務所
株式会社ぶらう
丸紅新電力株式会社
ミヨシ油脂株式会社
ヤマザキビスケット株式会社
横浜自動車部品株式会社

シルバー会員

株式会社エステア
株式会社NHKビジネスクリエイト
公益財団法人青梅佐藤財団
川崎信用金庫
松竹株式会社
有限会社青史堂印刷
月島食品工業株式会社
東京鐵鋼株式会社
株式会社野毛印刷社
久光製薬株式会社
本田技研工業株式会社
司法書士法人村田事務所
株式会社LALLヒューマンホールディングス

ブロンズ会員

アーティス ホールディングス株式会社
NPO法人かわさき市民アカデミー
酒蔵駒八 別館
株式会社シグマコミュニケーションズ
新宿村スタジオ
ニッシンエレクトロ株式会社
富士ゼロックス神奈川株式会社
前山歯科医院
株式会社ヤクワ
株式会社U・STYLE
株式会社ワイ・ティ・ビィ

賛助企業

アサヒビール株式会社
東海大学教養学部 芸術学科音楽学課程
政鬼運輸株式会社
山崎製パン株式会社

匿名4社

<東京交響楽団サポート会員制度>

東京交響楽団は、一流指揮者の招聘やチャレンジングなプログラミングによる定期演奏会の充実、次世代を担う子供たちの育成等、これまで以上に積極的な演奏活動を展開し、音楽文化の向上に努めて参ります。そのために不可欠な運営基盤の強化のため、広くご支援をお願いしております。みなさまのご入会を心よりお待ちしております。

個人会員

フレンズ1

年額1万円
～29,999円

フレンズ3

年額3万円
～49,999円

フレンズ5

年額5万円
～99,999円

サークル10

年額10万円
～249,999円

サークル25

年額25万円
～499,999円

サークル50

年額50万円～

法人会員

東京交響楽団とのパートナーシップは、御社のイメージアップにつながるだけでなく、従業員の皆様の福利厚生にもつながります。

ブロンズ

年額10万円～

シルバー

年額30万円～

ゴールド

年額50万円～

ダイヤモンド

年額100万円～

プラチナ

年額1000万円～

会員特典	詳細はHP、 又はお電話でお問合せ下さい	法人会員				サークル会員			フレンズ会員		
		法人会員	サークル会員	フレンズ5	フレンズ3	フレンズ1	フレンズ5	フレンズ3	フレンズ1		
主催公演へご案内		○	○								
出演者・楽員との懇親会		○	○								
オリジナルイベント		○	○								
ゲネプロ見学会(年3回以上)		○	○	○	○						
リハーサル見学会(年3回以上)		○	○	○	○					○	
ご芳名掲載		○	○	○	○					○	
主催公演チケット先行予約*1		○	○	○	○					○	
公演チケットをご優待価格にてご案内*2		○	○	○	○					○	

*1 一部対象外もございます。*2 東京交響楽団の主催公演およびミュージアムザ川崎シンフォニーホール主催公演が対象です。一部対象外もございます。

税制上の優遇措置について

東京交響楽団は内閣府より公益財団法人の認定を受けており、当楽団への御寄附には税制上の優遇措置が施されます。

◎個人の場合：[寄附金額から2,000円引いた金額]の40%分^{*3}について、税金(所得税・個人住民税)を控除されます。

また相続税にも控除が適用されます。

◎法人の場合：[損金算入限度額]が一定の算式に従い、拡大されます。^{*3}

^{*3}但し、各該当法令で定められた限度があります。

その他、マッチングギフトやご遺贈についてもご案内させていただいております。

公式サイトからクレジットカードでサポート会員にご入会(ご寄付)いただけるようになりました。

<http://tokyosymphony.jp/support/procedures.html>



サポート会員へのご入会・お問合せ TEL 044-520-1518

公益財団法人東京交響楽団川崎オフィス 支援開拓本部 E-mail supporters@tokyosymphony.com

Meet the Musicians

楽団員紹介

まっすぐ果敢に駆けるヴィオリスト

武生 直子

Naoko Takeo

[首席 ヴィオラ奏者]1997年11月入団

趣味: ガーデニング、散歩



©N.Ikegami

ヴァイオリンか、それともヴィオラか

音楽大学時代はヴァイオリンを専攻していました。オーケストラの授業や室内楽で、ヴァイオリン専攻生がヴィオラを担当することが多くあり、よくヴィオラを弾いていました。オーケストラでは、同じ内声の第2ヴァイオリンパートよりもヴィオラの方が私にはしっくりきて、深みのある音色に惹かれていました。

大学卒業が近づくにつれて、私はヴィオラのことを頭から離れなくなってしまいました。そこで、自分のヴァイオリンと学校から借りたヴィオラの2台を持って、ちょうど日本に帰国していたヴィオラ奏者の今井信子さんのところに伺ったのです。今思うと、なんと怖いもの知らずなのでしょう(笑)。そこで先生に演奏を聴いてもらい、背中を押してもらって、ヴィオラを弾いていく決意をしました。と

はいえ大学卒業間近の決断だったので、バルトーク《ヴァイオリン協奏曲 第2番》を弾いて卒業。その後、今井先生を追いかけてドイツ国立デトモルト音楽大学に進学しました。



留学中、初めての自分のヴィオラと。

真正正銘ヴィオラ専攻生ではあるものの、自分の楽器を持たずに留学。しばらくは同じ門下生の方に楽器を借り、留学して半年で初めて自分のヴィオラを手にすることができました。

“東響ガーデニング部”創設?

趣味はガーデニングと、自粛期間中にはじめた散歩。自宅付近には自然が多くあるのですが、まだまだ知らない場所が沢山あり、朝の空気を吸いながらの散歩はとてもしフレッシュできます。

ガーデニングが趣味の楽団員も多くて、同じくガーデニング好きな吉川万理さん(第1ヴァイオリン奏者)や、堀内幸子さん(第1ヴァイオリンフォアシュピール)から誕生日に薔薇の苗をいただいたこともあります!



家で育てている薔薇。

インタビュー:事務局

NEWS & TOPICS

退 団

2020年12月25日付

渡辺 功 Isao Watanabe [首席テューバ奏者]

1993年1月に入団し、27年にわたり活躍しました。このたび定年を迎え、退団致します。



新潟クボタ (新潟農商) コラボ企画 新潟産コシヒカリ「東響米」発売!

新潟の農業を支援しながら安心安全な美味しいお米を自社で集荷・検査・精米して全国へ提供している新潟クボタ (新潟農商) の協力のもと、当団のオフィシャルコシヒカリ、その名も「東響米」を発売致しました! 音楽とごはんを愛する皆さまに美味しいお米を全国へお届けいたします。

精米したてのお米を召し上がっていただくため、お求めは新潟農商公式サイトにて承ります。『東響米』で検索を!

キューブ【300g¥320 (税込・送料別)】
ギフト【キューブ6個入り ¥2,250 (税込・送料別)】



お求めは
新潟農商
公式
サイトへ→



(株) イノアックコーポレーションと東京交響楽団がマスクでコラボレーション 首掛けストラップ一体型マスク 「かけマス」を数量限定で先行販売

東京交響楽団のロゴマークがプリントされた、「かけマス (東京交響楽団モデル)」を数量限定で発売しました。外したマスクを首から下げられるため、わざわざマスクケースやポケットに収納する手間を省くことができる点が「かけマス」最大の特長です。東響SHOPオンライン支店で販売中。S・M・Lの3サイズ1枚650円 (税別)。



K A K E | かけ
M A S K STRAP INTEGRATED MASK | マス

「音楽のまち かわさきx東京交響楽団」 ふるさと納税にCD・オリジナルグッズが登場!

川崎市のふるさと納税にて、東京交響楽団のCDとオリジナルグッズが返礼品として追加されました! 選べる3コース「CDセット」「CDとオリジナルグッズセット」「オリジナルグッズセット」を取り揃えています。ふるさと納税で東京交響楽団の応援をお願いいたします!

※川崎市のふるさと納税のため、お申込みは川崎市に住民票登録のない方が対象です。

BSN新潟放送、ドキュメンタリー番組 「それでも音楽を!リゅーとぴあ・東京交響楽団の2020」放送!

1999年に新潟市と準フランチャイズ契約を結び、リゅーとぴあでの新潟定期演奏会を開催する当団を追うドキュメンタリー番組の放送が決定しました。今夏から撮影が開始され、11月新潟定期まで密着取材が行われました。

新潟特別演奏会やインタビューを通して、当団と新潟市民との20年以上にわたる交流を描きます。是非ご覧ください。

放送番組 BSN新潟放送

「それでも音楽を!リゅーとぴあ・東京交響楽団の2020」

放送予定日

2020年12月26日(土) 16:00-16:30

※編成上の都合等により題名・放送時間・内容は変更になる可能性があります。

※新潟エリアローカルでの放送予定です。

ノット&東響CD

「ベートーヴェン:交響曲第9番《合唱付》」好評発売中!

2019年、ノット第九元年——。

「目が覚めるような“快演”」と評され話題を呼んだ本公演が、音楽監督ジョナサン・ノット&東京交響楽団のCD第9弾として待望のリリース!

ご購入は、
東響SHOP
オンライン
支店へ→



「子どものためのオーケストラ鑑賞」今年も開催!



本拠地であるミュージア川崎に、市内の小中学生約8000人を迎えた本公演。全6公演開催されました。

感染症対策を講じ、消毒はもちろん、隣同士の座席を空ける、公演数を増やす等の対応で、今年も皆さまにお楽しみいただくことができました。

NEXT PROGRAM

1/10(日) ニューイヤーコンサート2021
2:00p.m. サントリーホール

1/11(月・祝) ニューイヤーコンサート2021
2:00p.m. ミューザ川崎シンフォニーホール

● 指揮:秋山和慶

● ピアノ:小山実稚恵

● J.シュトラウスⅡ:ワルツ「酒、女、歌」

● ラフマニノフ:ピアノ協奏曲 第2番

● ドヴォルザーク:交響曲 第9番「新世界より」

【1/10】SSシングル¥9,000 SSペア¥16,000 S¥7,000 A¥6,000 B¥5,000

【1/11】S¥6,500 A¥4,000



1/17(日) 川崎定期演奏会 第79回
2:00p.m. ミューザ川崎シンフォニーホール

● 指揮:大植英次

● ヴァイオリン:木嶋真優

● チャイコフスキー:ヴァイオリン協奏曲

● チャイコフスキー:交響曲 第4番

S¥7,000 A¥6,000 B¥4,000 C¥3,000 P¥2,500



1/24(日) 第680回定期演奏会
7:00p.m. ミューザ川崎シンフォニーホール

1/26(火) 新潟特別演奏会2021睦月
3:00p.m. "りゅーとびあ"コンサートホール

● 指揮:下野竜也

● ヴァイオリン:南紫音

● ボッケリーニ(ベリオ編曲):マドリードの夜の帰営ラッパ

● ベルク:ヴァイオリン協奏曲「ある天使の思い出に」

● ベートーヴェン:「フィデリオ」序曲

● [レオノーレ]序曲 第1番・第2番・第3番

※本公演は、5月30・31日の開催を予定しておりました。

「第680回定期演奏会」「新潟定期演奏会第119回」の延期公演です。

※「第680回定期演奏会」は、当初の予定から会場が変更となりました。

【1/24】S¥7,000 A¥6,000 B¥5,000 C¥4,000 P¥2,500

【1/26】S¥6,000 A¥5,000 B¥4,500 C¥4,000 D¥3,000



東京交響楽団

川崎市フランチャイズオーケストラ
新潟市準フランチャイズオーケストラ
<提携>公益財団法人八王子市学園都市文化ふれあい財団

公式サイト <http://tokyosymphony.jp>



1946年、第二次世界大戦によって中断された音楽文化の再建と、新しい舞台音楽の公演を目標に「東宝交響楽団」として創立。1951年に東京交響楽団に改称し、現在に至る。

現代音楽やオペラの初演に定評があり、これまでに文部大臣賞、京楽音楽賞大賞、文化庁芸術作品賞、モービル音楽賞、サントリー音楽賞、川崎市文化賞など日本の主要な音楽賞の殆どを受賞。2020年3月第32回ミュージック・ペンクラブ音楽賞「オペラ・オーケストラ部門」[室内楽・合唱部門(東響コーラス)]をW受賞した。

2014年度シーズンより、ジョナサン・ノットが第3代音楽監督に就任。音楽監督と共に3年がかりで取り組んだ「モーツァルト 演奏会形式オペラシリーズ」や、ミュゼ川崎シンフォニーホール開館15周年記念公演「グレの歌」はいずれも高い評価を得た。2019年にはジョナサン・ノット指揮「マーラー：交響曲第10番&ブルックナー：交響曲第9番」が第31回「ミュージック・ペンクラブ音楽賞優秀録音作品賞」を受賞。音楽誌「音楽の友」の「41人の音楽評論家・記者が選ぶ「コンサート・ベストテン2019」」にて、最多3公演が選出され注目を集めた。

ITへの取り組みも積極的で、[VRオーケストラ]や[LINeチケット]の導入、日本のオーケストラとして初の音楽・動画配信サービス「TSO MUSIC&VIDEO SUBSCRIPTION」をスタートしたほか、2020年3月にニコニコ生放送でライブ配信した無観客演奏会は約20万人が視聴し注目を集めた。また、録音や放送においても活発で、テレビ朝日「題名のない音楽会」レギュラー出演や、TOKYO SYMPHONYレーベル、N&Fレーベル、キングレコード、EXTONレーベル、日本コロムビア等からCDを多数リリースしている。

舞台芸術創造活動活性化事業として文化庁の助成を受け、サントリーホール、ミュゼ川崎シンフォニーホール、東京オペラシティコンサートホールで主催公演を行うほか、川崎市とフランチャイズ、新潟市と準フランチャイズ、(公財)八王子市学園都市文化ふれあい財団とパートナーシップ提携し、コンサートやアウトリーチなどを積極的に展開している。これら地域に密着した活動の一方で、海外においてもウィーン楽友協会での公演や日中平和友好条約締結40周年記念公演等58都市で78公演を行い、国際交流の実を挙げてきた。また、新国立劇場では1997年の開館時からレギュラーオーケストラとして毎年オペラ・バレエ公演に出演。さらに、子どものための演奏会にもいち早く取り組んでおり、「0歳からのオーケストラ」「子ども定期演奏会(サントリーホールとの共催)」は多方面から注目されている。

東日本大震災を機に、2011年5月から楽団員によるチャリティコンサート「Concert For Smiles」を定期的で開催。その募金は(公財)国際開発救援財団を通じて被災地に役立てられている。

Jonathan Nott began his tenure as the 3rd Music Director of the Tokyo Symphony Orchestra in 2014 season. Mo. Nott and the Orchestra won the He Best Recording of Music Pen club Japan Award for Opera & Orchestra category and Tokyo Symphony Chorus, Orchestra's amateur chorus also won the prize for Chamber & Chorus category.

Highlights of past seasons with Mo. Nott include Symphony 9 by Beethoven Gurre-Lieder by Schoenberg celebrating 15th Anniversary of Muza Kawasaki Symphony Hall, TSO's home and Mozart's La Ponte Operas in concert style. In 2018, TSO launched "TSO Music & Video Subscription", first-ever digital project in Japanese Orchestras, which provides live-concert video and music as well as CD recording. In March 2020, the live-streamed concert without audience on nico-nico Live Channel which attracted more than 200,000 viewers nationwide, has been a mega-hit in Japan.

Outside of Japan, the orchestra has performed 78 concerts in 58 cities since 1976. In 2016, the Tokyo Symphony Orchestra celebrated its 70th anniversary and took a European tour including the concert at Musikverein Großer Saal in Vienna with Mo. Nott. In August 2018, in commemoration of the 40th anniversary of the Conclusion of the Treaty of Peace and Friendship between Japan and China, the Orchestra had concerts in Shanghai and Hangzhou and received high praise. The Tokyo Symphony Orchestra was founded in 1946 and has a reputation for giving first performances of a number of contemporary music and opera. Through these activities, the orchestra has received most of Japan's major music awards such as the Minister of Education Award, the Grand Prix of Kyoto Music Award, Mainichi Art Award, Agency for Cultural Affairs Art Award, Suntory Music Award and Kawasaki City Culture Award.

Since becoming the resident orchestra of the City of Kawasaki in 2004, a semi-resident orchestra agreement with the City of Niigata in 1999, and a partnership agreement with Hachioji College Community & Culture Fureai Foundation in 2013, the orchestra has been enthusiastic for school concerts and community concerts. The Tokyo Symphony Orchestra has been regularly performing various operas and ballets at the New National Opera Theatre, Tokyo since its opening in 1997.

マエストロ・シート

【5組10名の小・中・高校生無料ご招待】



NICO NICO
TOKYO SYMPHONY
ニコニコ東京交響楽団



音楽・動画配信サイト
「TSO MUSIC & VIDEO
SUBSCRIPTION」

1か月500円(税別)



このプログラムは見やすさ・読みやすさに配慮したユニバーサル・デザインフォントを使用しております。

Tokyo Symphony Orchestra Monthly Concert Broadcast
Symphony

Symphony 2020年(令和2年)12月号[非売品]

発行 公益財団法人東京交響楽団 〒169-0073 東京都新宿区百人町2-23-5 TEL 03-3362-6764
<川崎オフィス> 〒212-8554 神奈川県川崎市幸区大宮町1310
ミュゼ川崎セントラルタワー5階 TEL 044-520-1518

Art Direction & Design : Be.To Bears 印刷 : NHKビジネスクリエイト